



〔写真解説〕

カニシカ舍利容器 しやりようき ペシャワル博物館（パキスタン）

銅製 高20cm 2世紀

ペシャワル郊外にある塔址から出土した舍利容器。この塔址は、カニシカ王が建立し、法顕や玄奘などが「比類のない見事な高塔」と讃えた、いわゆるカニシカ大塔の址と考えられている。この舍利容器の銘文にも「カニシカ」の文字がみられる。銅製で蓋と身から成り、蓋には梵天と帝釈天から礼拝されるブッダの像を取り付けている。身には花綱を担ぐ童子のモチーフが表わされ、正面にはカニシカ王らしき人物の姿もみえる。

《「ブッダ展」より》

ブッダ展

7月11日(土)～8月30日(日)

東新館・西新館

文化財指定制度100周年記念

特別展観

百済観音

9月8日(火)～10月4日(日)

東新館

平常展

仏教美術の名品

7月1日(水)～

本館

休館日：月曜

(ただし7/20は開館し、7/21が休館)

開館時間：9時～16時30分

(入館は16時まで)

金曜は9時～20時

(入館は19時30分まで)

## ブッダ展 7月11日(土)～8月30日(日)

「ブッダ」とは目覚めた人という意味で、一般には釈尊（お釈迦さま）のことを指します。この展覧会は、ブッダ釈尊の生涯とその求めた理想の世界に焦点をあてたもので、1）ブッダの姿 2）ブッダの生涯 3）理想の世界を求めて の3つのテーマを立てて作品を展示します。ガンダーラを擁するパキスタンの四大博物館（スワート考古博物館、タキシラ考古博物館、カラチ国立博物館、ペシャワール博物館）の所蔵品を中心に、大英博物館・ギメ国立東洋美術館・ベルリン国立インド博物館・エルミタージュ美術館・クリーヴランド美術館、および国内にある彫刻と絵画の名品を一堂に集め、アジア世界における仏教美術の広がりを見渡すことができる大規模な展覧会です。

出陳品137件（海外73件、国内64件〈国宝3件、重要文化財26件〉）



ごうまじゅうどう  
降魔成道

ベルリン国立インド美術館

### 《主な出陳品》

カニシカ舎利容器（ペシャワール博物館）、<sup>ぼんてんかんじょう</sup>梵天勧請（ベルリン国立インド博物館）、ストゥーパ図（大英博物館）、仏足石（スワート考古博物館）、仏坐像（クリーヴランド美術館）、降魔成道（ベルリン国立インド博物館）、仏頭（タキシラ考古博物館）、観音諸難救済図（ギメ国立東洋美術館）、阿弥陀三尊来迎図（エルミタージュ美術館）、●仏足石（薬師寺／特別出陳）、◎釈迦如来倚像（深大寺）、◎釈迦如来坐像（室生寺）、◎釈迦三尊像（常信寺）、◎仏涅槃図（東京国立博物館）、◎釈迦八相図（大福田寺）、◎阿弥陀三尊来迎図（心蓮社）、●六道絵（聖衆来迎寺）

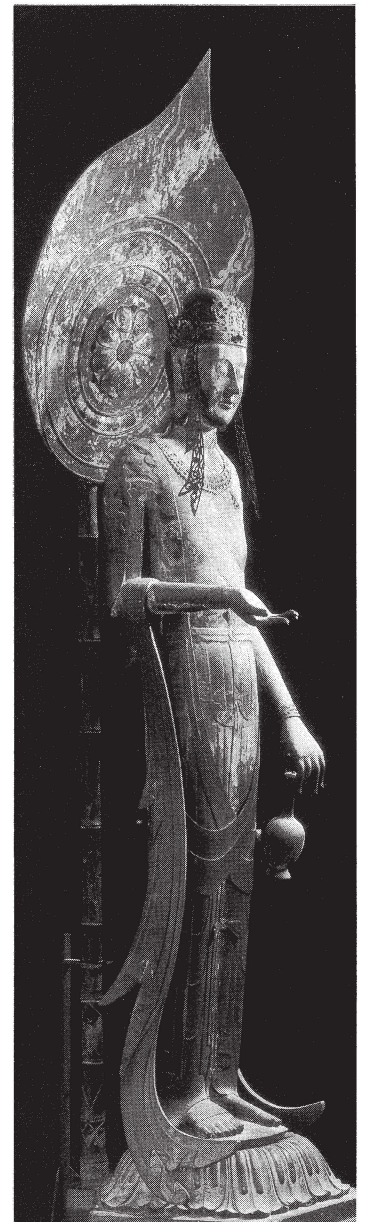
主 催：奈良国立博物館、NHK奈良放送局、NHKきんきメディアプラン  
後 援：外務省、文化庁、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会  
協 賛：大林組、日動火災  
協 力：日本通運、全日空  
制作協力：NHKプロモーション

### 文化財指定制度100周年記念

### 特別展観 <sup>くだら かん のん</sup>百済観音 9月8日(火)～10月4日(日)

昨年は「フランスにおける日本年」にあたり、日本を代表する文化財として法隆寺の百済観音がパリのルーブル美術館で展覧され、大きな反響をよびました。優美な長身と神秘的な顔だちで多くの人々を魅了してきた百済観音。明治30年（1897）に文化財の指定制度ができると、直ちに国宝に指定されています。今年の10月には法隆寺に百済観音堂が完成し、百済観音はそこに安置されるので、法隆寺以外で見ることができるのは、おそらくこれが最後の機会になると思われます。百済観音は、奈良帝室博物館（現在の奈良国立博物館）に長期にわたって寄託されていたこともあり、当館とは深い御縁があります。「百済観音 最後の旅」を、当館でぜひ御覧ください。

主 催：文化庁、奈良国立博物館、国際交流基金  
特別協力：朝日新聞社、NHK奈良放送局  
協 賛：竹中工務店、トヨタ自動車  
協 力：日本国土開発、日本通運、新映像産業推進センター



◎観音菩薩立像（百済観音）  
法隆寺

会期中に、ハイビジョンギャラリー「百済観音 いま甦る飛鳥の色」を上映します。



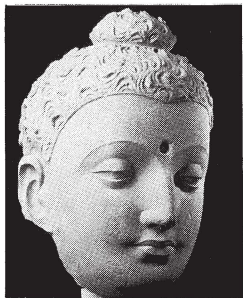
ブッダ展 東新館・西新館

降魔成道(ギメ国立東洋美術館)、ストゥーパ図(大英博物館)、仏足石(スワート考古博物館)、三道宝階降下(スワート考古博物館)、円輪光の礼拝(大英博物館)、初転法輪の礼拝(東京国立博物館)、火神堂内の毒龍調伏(松戸市立博物館)、天部像頭部(ベルリン国立インド美術館)、菩薩頭部(クリーヴランド美術館)、仏坐像(クリーヴランド美術館)、菩薩トルソ(ギメ国立東洋美術館)、菩薩坐像と供養の比丘たち(蘭山龍泉堂)、ジナ頭部(大英博物館)、菩薩頭部(東京国立博物館)、仏坐像(クリーヴランド美術館)、仏頭(松戸市立博物館)、仏立像(ベルリン国立インド美術館)、仏立像(ベルリン国立インド美術館)、仏頭(ギメ国立東洋美術館)、仏立像(ギメ国立東洋美術館)、仏立像(大英博物館)、菩薩トルソ(ギメ国立東洋美術館)、観音菩薩立像(ギメ国立東洋美術館)、ムチリング竜王に護られた仏坐像(ギメ国立東洋美術館)、観音菩薩頭部(ギメ国立東洋美術館)、仏立像(ギメ国立東洋美術館)、カニシカ舍利容器(ペシャワル博物館)、梵天勧請(ベルリン国立インド美術館)、仏立像(ペシャワル博物館)、仏坐像(ペシャワル博物館)、仏頭(東京国立博物館)、弥勒菩薩立像(タキシラ考古博物館)、菩薩立像(ペシャワル博物館)、弥勒菩薩の説法(ベルリン国立インド美術館)、菩薩半跏思惟像(松岡美術館)、仏頭(タキシラ考古博物館)、仏頭(タキシラ考古博物館)、仏頭(タキシラ考古博物館)、菩薩頭部(タキシラ考古博物館)、双神変像(ベルリン国立インド美術館)、仏頭(シルクロード研究所)、携帯用龕像(エルミタージュ美術館)、菩薩頭部(エルミタージュ美術館)、僧侶頭部(エルミタージュ美術館)、仏坐像(エルミタージュ美術館)、◎仏坐像(永青文庫)、交脚菩薩像龕(大阪市立美術館)、仏頭、菩薩頭部(大阪市立美術館)、◎菩薩半跏像(永青文庫)、菩薩五尊像(東京国立博物館)、◎勢至菩薩立像(東京国立博物館)、仏頭(大阪市立美術館)、仏頭(大阪市立美術館)、◎仏三尊像、如来坐像(正木美術館)、菩薩立像(正木美術館)、二仏並坐像(東京大学文学部)、仏三尊像(東京国立博物館)、弥勒菩薩半跏像(東京国立博物館)、仏立像(根津美術館)、釈迦如来立像(光明寺)、釈迦如来立像(当館)、◎誕生釈迦仏立像(正眼寺)、釈迦如来立像(当館)、◎釈迦如来倚像(深大寺)、◎釈迦如来坐像(桜本坊)、◎誕生釈迦仏立像(悟真寺)、◎釈迦如来坐像(西大寺)、●釈迦如来坐像(室生寺)、◎釈迦如来坐像(保福寺)、◎釈迦三尊像(常信寺)、◎釈迦如来立像(常楽院)、◎悉多太子坐像(仁和寺)、ヴィシュヴァンタラ本生図(大英博物館)、ヴィシュヴァンタラ本生図浮彫(ベルリン国立インド美術館)、捨身飼虎本生図(エルミタージュ美術館)、シビ王本生図浮彫(大英博物館)、シャーマ本生図浮彫(タキシラ考古博物館)、燃灯仏授記本生と菩薩坐像(ペシャワル博物館)、託胎靈夢と占夢(スワート考古博物館)、誕生(カラチ国立博物館)、勉強(シルクロード研究所)、四門出遊(ペシャワル博物館)、宮廷生活と出家決意(カラチ国立博物館)、出城(カラチ国立博物館)、宮廷生活・出家決意・出城(カラチ国立博物館)、苦行と苦行の放棄(ベルリン国立インド美術館)、降魔成道(スワート考古博物館)、降魔成道(ベルリン国立インド美術館)、四天王奉鉢(シルクロード研究所)、初転法輪(タキシラ考古博物館)、ウダヤナ王の造仏(ペシャワル博物館)、帝釈窟禪定(タキシラ考古博物館)、涅槃と弥勒菩薩(タキシラ考古博物館)、納棺(シルクロード研究所)、荼毘(ベルリン国立インド美術館)、舎利の争奪・舎利八分・舎利の運搬(シルクロード研究所)、起塔<ストゥーパ礼拝>(ベルリン国立インド美術館)、釈迦の生涯(松岡美術館)、仏三尊像<背面に仏伝浮彫>(大和文華館)、四面像(大阪市立美術館)、仏伝浮彫台座(東京国立博物館)、仏伝図幡<苦行・尼連禅河での沐浴>(大英博物館)、仏伝図幡<四門出遊>(ギメ国立東洋美術館)、◎絵因果経(大東急記念文庫)、◎釈迦八相図(久遠寺)、◎釈迦八相図(根津美術館)、◎釈迦八相図(大福田寺)、釈迦八相図(常楽寺)、◎仏涅槃図(東京国立博物館)、◎八相涅槃図(劔神社)、仏三尊像(ペシャワル博物館)、蓮華座上の仏説法図浮彫(ペシャワル博物館)、蓮華座上の仏説法図浮彫(松岡美術館)、蓮華座上の仏説法図浮彫(松岡美術館)、阿弥陀浄土図(エルミタージュ美術館)、阿弥陀浄土図(エルミタージュ美術館)、阿弥陀浄土図(エルミタージュ美術館)、阿弥陀三尊来迎図(エルミタージュ美術館)、阿弥陀三尊来迎図(エルミタージュ美術館)、地獄図(ベルリン国立インド美術館)、十王経画卷(大英博物館)、如意輪観音菩薩図(ギメ国立東洋美術館)、観音諸難救済図(ギメ国立東洋美術館)、地藏十王図(ギメ国立東洋美術館)、◎十王図(当館)、◎十王図(二尊院)、地藏十王図(弘川寺)、◎釈迦三尊像(大覚寺)、観無量寿経变相図(エルミタージュ美術館)、◎当麻曼荼羅図(長谷寺)、◎阿弥陀三尊来迎図(心蓮社)、◎阿弥陀聖衆来迎図(阿日寺)、●六道絵(聖衆来迎寺)、◎十界図(奥院〔当麻寺〕)

《特別出陳》●仏足石 (薬師寺)



仏足石  
スワート考古博物館



仏頭  
タキシラ考古博物館



◎釈迦如来倚像  
深大寺

特別展観「百済観音」 東新館

●木造観音菩薩立像<百済観音>(法隆寺)

平常展 西新館

《特別出陳》◎銅造薬師如来及び両脇侍像(薬師寺)

平常展「仏教美術の名品」 本館 主な出陳品

【彫刻】

◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、銅造観音菩薩立像(当館)、銅造軍荼利明王坐像(園城寺)、◎銅造阿弥陀三尊立像(東京国立博物館)、塑造侍者坐像、金銅菩薩立像(以上当館)◎銅造薬師如来立像(般若寺)、◎銅造如意輪観音半跏像(東大寺)、◎木造伝救脱菩薩立像(秋篠寺)、◎木造虚空蔵菩薩半跏像(北僧房)、◎木造十一面観音立像(海住山寺)、木造如来立像(当館)、◎木造十二神将立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、●木造八幡三神坐像(薬師寺)、◎木造大將軍神像(大將軍八神社)、木造天部坐像(観音寺)、◎木造多聞天立像(当館)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造大日如来坐像(当館)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◎木造十一面観音立像(観心寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造金剛力士立像(財賀寺)、◎木造重源上人坐像(浄土寺)、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)

【絵画】

6月23日(火)～8月2日(日)  
板絵補陀落山図(海住山寺)、板絵十一面観音来迎図(海住山寺/写真)、◎法華経宝塔曼荼羅(立本寺)、◎法華経宝塔曼荼羅(談山神社)、華嚴五十五所絵(東大寺)、不空羂索観音四天王像(一乗寺)、馬頭観音像(西大寺)、◎十一面観音像(太山寺)、楊柳観音菩薩像(談山神社)、◎如意輪観音図(宝厳寺)、十一面観音像(中山寺)

8月4日(火)～9月13日(日)  
板絵補陀落山図、板絵十一面観音来迎図(以上海住山寺)、両界曼荼羅(当館)、千手観音像(観音正寺)、千手観音二十八部衆像、如意輪観音像、◎白衣観音像、法華経曼荼羅(以上当館)、◎観経十六観図(阿弥陀寺)、◎閻魔王図(長泉寺)、熊野曼荼羅、生駒曼荼羅(生駒神社)

9月15日(火)～10月25日(日)  
●聖徳太子及び天台高僧像のうち、◎阿弥陀如来像(以上一乗寺)、◎十一面観音像(能満院)、十一面観音像、文殊菩薩像、普賢菩薩像、◎十二天像(以上当館)、◎一字金輪曼荼羅(南法華寺)、法華曼荼羅(下部神社)、◎華嚴海会善知識曼荼羅(園城寺)、◎華嚴五十五所絵、華嚴五十五所絵(以上当館)

【書跡】

6月23日(火)～8月2日(日)  
◎弘法大師御勘文、◎弘法大師二十五箇条遺告、◎雑筆集、◎類秘抄(以上当館)、◎大般若経<魚養経>(薬師寺)、◎大般若経<長屋王願経>(見性庵)

8月4日(火)～9月13日(日)  
●泉涌寺勧縁疏(泉涌寺)、◎大福田寺勧進状(大福田寺)、◎六祖惠能伝(延暦寺)、◎慈覚大師伝(三千院)、●法華経<竹生島経>(宝厳寺)、法華経巻第一(当館/写真)

9月15日(火)～10月25日(日)  
●開元寺求法目録、●太政官給公驗牒<先本>(以上園城寺)、◎法華経<色紙経>(当館)、紺紙金字法華経(興聖寺)、毘尼母経巻第五<足利尊氏願経>、版本大般若経巻第三百六十五(以上当館)

【工芸】

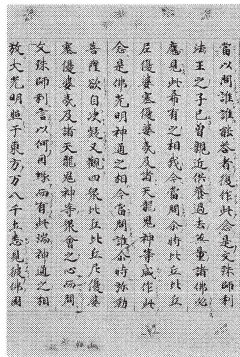
金銅輪宝羯磨文透彫幡、◎金銅透彫華鬘(神照寺)、●金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、金銅種子華鬘、散蓮華文螺鈿卓(以上当館)、●当麻曼荼羅厨子扉(当麻寺)、◎金銅五輪塔形舍利容器および内容器(浄土寺)、●金銅透彫舍利容器および内容器(西大寺)、一面器及び水瓶、金山寺香炉(以上当館)、金銅塔碗形香合、金銅柄香炉(高山寺)、◎銅三具足(聖衆来迎寺)、王子形水瓶、王子形水瓶<かぶら形>、仙蓋形水瓶、◎鉄釣燈籠、◎銅梵鐘(以上当館)、銅梵鐘(海住山寺)、◎銅罌口(長谷寺)、●金銅透彫華籠(神照寺)、◎紙胎漆塗彩絵華籠(万徳寺)、竹製華籠(性海寺)、●金銅密教法具(厳島神社)、◎銅鐃(円福寺)、銅三鈷杵<古式>、金銅独鈷杵(以上当館)、金銅三鈷杵、金銅五鈷杵(当館)、◎金銅四天王鈴(弥谷寺)、銅三昧耶鈴(金峯山寺)、金銅五鈷鈴(当館)

【考古】

飛鳥～奈良時代の古瓦(当館など)、奈良・山村廃寺出土蓮花文鬼瓦、奈良・奥山久米寺出土蓮花文鬼瓦(京都国立博物館)、奈良・秋篠寺出土鬼瓦、奈良・橘寺出土方形三尊・仏(当館)、奈良・川原寺出土方形三尊・仏(明日香村)、奈良・南法華寺出土方形三尊・仏(南法華寺)、奈良・山田寺出土・仏、三重・夏見廃寺出土・仏(以上当館)、奈良・川原寺裏山出土塑像頭部(明日香村)、奈良・本薬師寺出土塑像頭部(薬師寺)、滋賀・雪野寺出土塑像断片、◎青磁鉢(正暦寺)、◎奈良・金峯山経塚出土金鍍銀経箱(金峯神社)、銅経筒<平治元年銘>、瑠璃鈕銅板製経筒(以上当館)、●三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土品<銅経筒、銅鐃>(金剛証寺)、◎銅板法華経(長安寺)、福岡・飯盛山瓦経(当館)[～8月2日]◎奈良・山村廃寺出土金銅風鐸(円証寺)、和歌山・上野廃寺出土金銅風鐸(当館)[8月4日～]◎佐井寺僧道薬墓誌及骨壺、◎山代忌寸真作及妻墓誌(以上当館)、◎藤原道長願経(金峯神社)



板絵十一面観音来迎図  
(部分)  
海住山寺



法華経巻第一(部分)  
当館



## 1歳7ヵ月のあかねと「天平展」を見た。

普及室長 西山 厚

1歳7ヵ月のあかねと「天平展」を見た。あかねは一人で歩くのが大好き。抱っこを嫌がる。抱っこして東新館に入ったとたん、降ろせとばかりにやっぱりあばれだした。仕方がないので降ろして勝手にさせる。あかねは一人でどんどん歩き、関心をもったところに立ち止まる。立ち止まって20～30秒くらいジッと見ている。そしてまたタッタッタと歩き出す。

あかねが立ち止まってジッと見ていたのは、見た順序で言うと、興福寺の緊那羅立像（陳列番号12／写真1）、東大寺の伎楽面のうち迦樓羅（28）、新薬師寺の頻伽羅大將立像（32）、京都国立博物館の鬼神文鬼瓦（3）、東大寺の誕生仏（24）、東大寺の西大門勅額（27）、美江寺の十一面観音立像（31）、唐招提寺の増長天（46）の8つだった。

私は声をかけずに、ただ後ろからついていった。ついて歩きながら考えた。こんな小さな子供でも、興味をもつものともたないものがある。興味をもったものに対しては、全身でそれに向かい、真剣に見る。

「仏教美術は難しい」とよく言われる。「子供には難しすぎる」とも言われる。しかしそれは、難しいことを教えようとするからではないのか。人はすべて

異なり、興味の抱き方も人によって違う。「知識がなくても真実に到達できる」、と法然上人も言っている…。

別行動をとった長男の瑞穂（7歳）と次男の大悟（5歳）に、「どれが一番好き？」と聞いてみた。瑞穂は「角がはえてるヤツ」と言った。緊那羅（写真1／部分）である。瑞穂は、展示されているものは何ひとつ見逃さずに見る。大悟は「ものさしみたいな、あれ」と言った。上海博物館の象牙尺（写真2／部分）である。これは思いがけなかった。大悟は小物や器を好む。もっと小さな頃からそうだった。1歳になったばかりの頃、奈良そごう美術館の「北大路魯山人展」に連れていった。きれいな器がたくさん並んでいるのを見た大悟は、大喜びで興奮状態になり、一番気に入ったらしい「九谷風糸巻」という器の前では、ついに両手を合せて拝んでいた。去年の「阿修羅との出会い」展では、東寺の八部衆面のうちの摩睺羅に強い興味を示していた。頭の上にとぐろを巻いたヘビをのせている摩睺羅（写真3）。「頭の上ののっているのは何だと思う？」と聞くと、大悟は躊躇なく大きな声で答えた。「うんち」。

大悟は十一面観音が嫌い。「悪い。人の首にとって自分の頭につけてる。悪い。」と言う。「大悟、違うよ。あれはね…」と言いかけて、私は自分のなかに大悟を本当に納得させられるだけのものがないのに気がついた。「どんな人にもわかってもらえるように話す」。博物館に入った

時からそれが目標のひとつなのに、全然ダメな自分にがっかりさせられた。ちなみに、大悟はもちろん千手観音も嫌いである。

奈良国立博物館では、毎月第2土曜日に「親子の文化財教室」を開いている。小学校5・6年生と中学生、そしてその保護者を対象にした教室である。よい企画だと思うが、できればさらに①先生 ②小学校1・2年生 ③幼稚園児 ④奈良市民などを対象とした講座や教室もやってみたい。奈良は素晴らしい文化財の宝庫である。今さら言うまでもないことだが、「天平展」を経験してその思いがますます強くなった。奈良に住み、奈良国立博物館で仕事ができることを、とても幸せに思う。

今年から、博物館に近い奈良市東部の幼稚園にも展覧会のポスターを送ることにした。幼稚園にそのポスターが貼られているのを見るととても嬉しい。奈良は、本当にすぐれたものと出会うことができる恵まれた地である。小さい頃からよいものに慣れ親しんでいけば、様々な場所で、小さな子供なりに心を動かし、理解し、何かを吸収することができる筈である。博物館もそういう場所のひとつでありたい。



写真1



写真2



写真3

## 大人気のミュージアムショップ

地下回廊にリニューアルオープンした「ミュージアムショップ」が人気を集めています。4月の東新館のオープンに合せ、100種類以上の新しいオリジナル・グッズを開発。仏像などを可愛くデザインしたスタンプやシール、正倉院文様のハンカチ、「走り大黒」の便箋、「元気が出る仏像えんぴつ」、勾玉ペンダントなどがよく売れています。仏教美術・歴史・奈良に関する本も充実しました。「ミュージアムショップ」には入館料なしに自由に（無料で）入ることができ、すぐ隣には喫茶・軽食のコーナーもあります。すでに産経新聞、読売新聞、ぴあ関西版、マックジョイ関西版（マクドナルドの情報誌）、奈良テレビなどが取材に訪れ、奈良公園の新しい人気スポットになりつつあります。





## ◆公開講座 「ブッダ展」に関連するものです。

8月1日(土) 「ガンダーラの仏伝美術について」

名古屋大学教授 宮治 昭

午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。先着200名。

## ◆特別講演 特別展観「百済観音」に関連するものです。

9月12日(土) 「謎の美仏 百済観音」

法隆寺管長 高田良信

午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。先着200名。

## ◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施します。

7月8日(水) 「古代の瓦」

考古室研究員 高橋照彦

8月12日(水) 「浄土教の世界」

研修員 田中伸一

9月9日(水) 「百済観音をめぐって」

美術室研究員 礪波恵昭

いずれも午後2時より。7月・8月は本館、9月は東新館にて。入館者の聴講自由。

## ◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年のテーマ 〈奈良時代の歴史と美術〉

7月11日(土) 「奈良時代の寺院」

考古室長 井口喜晴

8月8日(土) 「奈良時代の書跡」

普及室長 西山 厚

9月12日(土) 「東大寺」(現地見学)

解説ボランティア

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでも構いません)を記入し、申込んで下さい。電話でも構いません。参加料は無料ですが、見学科金が必要なことがあります。定員は200名(先着順)。申込みは、学習普及専門官(TEL0742-22-7008)まで。

## ◆ボランティアによる作品解説

毎日10:00～11:00～14:00～15:00～の4回、5人以上集まれば随時、わかりやすい作品解説を展示室でおこなっています。

## ◆ライトアッププロムナード・なら'98

7月1日(水)から10月31日(土)まで、奈良公園はライトアップされて、幻想的な光の舞台に変わります。ライトアップされるのは、奈良国立博物館(本館・仏教美術資料研究センター)、猿沢池、興福寺五重塔、春日大社一の鳥居、浮見堂、東大寺(大仏殿・中門・南大門)、奈良県新公会堂。時間は19:00～22:00(7～8月)、18:00～22:00(9月～10月)。金曜日の夜は、博物館も20:00まで開館しています。いつもと違う、不思議の世界をお楽しみ下さい。

**開館時間** 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

**休館日** 月曜日(ただし7月20日は開館し、7月21日が休館)

**観覧料金** 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料

ブッダ展		大人	高・大生	小・中生
	一般	1,200円	900円	400円
	団体	900円	500円	200円

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	420円	130円	70円
	団体	210円	70円	40円

\*団体は責任者が引率する20名以上

\*特別展観「百済観音」はこの料金で観覧できます。

\*この料金で平常展もあわせて観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**  
ホームページ〈URL〉<http://www.narahaku.go.jp/>